

# 第37回 通常総会 議案書



日

時 2026年3月4日(水)  
13:00 開会 ~ 15:45 閉会

【受付開始】12:30 【会場】日経ホール



バルシステム生産者・消費者協議会

東京都新宿区大久保2丁目2-6 ラクアス東新宿 TEL (03)5292-8250

# パルシステム生産者・消費者協議会

## 第37回 通常総会

### 《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議
  - 第1号議案 2025年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
  - 第2号議案 2026年度活動方針案並びに予算案承認の件
7. 議長解任
8. 閉会の辞

---

### 《目次》

第1号議案	2025年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件	1
第2号議案	2026年度活動方針案並びに予算案承認の件	9
	【資料】	11
	【会員名簿】	22

### 《表紙画像》

- 左上：第3回関西・以西ブロック若手生産者交流会での視察(真南風)  
右上：消費者運営委員会フィールドワークでの援農(肥後あゆみの会)  
左中：関東・中部ブロック会議での視察(佐久ゆうき合同会社)  
右中：次世代リーダー研修世代間交流会  
左下：第24回女性農業者交流会での会員生協別交流会(パルシステム静岡)  
右下：会員生協配送センター学習交流企画(パルシステム東京)

## 第1号議案

# 2025年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

### 《2025年度の振り返り》

2025年の国内農業は気候変動への対応とスマート農業の普及が進んだ1年となりました。1月から2月にかけての記録的な寒波や大雪は、果樹の枝折れ被害や鶏舎の倒壊、農作物の顕著な生育遅れによる需給バランスの乱れをもたらしました。

7月には、兵庫県丹波市で国内最高気温の記録を塗り替える41.2℃を記録するなど、3年連続となる酷暑により農作物の品質低下や収穫量の減少などの影響が全国各地で発生しました。さらに、里地里山の荒廃や気候変動による影響により、農業における鳥獣被害の影響が年々深刻化しています。特に2025年は国内各地で熊の出没と人身被害が多発し、農業のみならず生活全般への深刻な社会問題となりました。



▲トキワ養鶏(青森)での鶏舎倒壊

2024年から続いたコメ不足と価格高騰は、2025年も大きな影響を及ぼしました。政府による備蓄米の放出が行われたものの、米価は記録的な高騰を見せ、これまで拡大を続けてきた飼料用米の作付面積は前年より5.3万ha減少する4.6万haとなり(出展:農水省 飼料用米をめぐる情勢について)、輸入飼料の高騰の中で進められてきた飼料米導入の流れは転換期を迎えています。

農業経営の面では、11月に発表された5年に1度の調査による2025年農林業センサスの結果として、この10年で約55万件の農業経営体の減少と、経営体の大規模化・組織化が鮮明になりました。6月には改正労働安全衛生規則が施行され、労働者を雇う全ての農業者・法人に対し、熱中症対策への対応が義務化されるなど安全対策が強化されました。一方で、農業生産に関わるコストは人件費の上昇、農業資材や動力光熱費の高騰、労働安全衛生への対応のほか、省力化・生産性向上にむけたスマート農業への投資などが進み、持続可能かつ再生産可能な農業のための適正な農産物価格の在り方はこれまでの価値観では計り知れない状況となっています。

2024年6月改定の「食料・農業・農村基本法」に基づき、2025年4月には「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。食料安全保障を明記し、持続的な食料供給に必要な合理的な価格形成について、持続可能な費用を考慮した取引を目指す方針が掲げられました。6月には通称「食料システム法」が公布され、コストを下回る価格での取引の抑止と国産原材料の活用や環境負荷の抑制に取り組む食品産業事業者の支援を柱とし、2026年4月の全面施行に向けての準備が進められています。

これらの課題を背景に、国内の農業は大きく構造的な転換期を迎えています。パルシステム生産者・消費者協議会(生消協)では、この状況のなかで、これまで産直を通して育まれてきた生産者と消費者の相互理解をより一層深め、次世代への継承を進めると共に、パルシステムおよびパルシステム協力会とのパートナーシップによる新たな価値の創造を促進すべく、2025年度の活動を次のように振り返り、2026年度の活動方針へと繋げます。

## 《重点方針と具体的施策》

### 1. 持続可能な農業生産を推進します

(1) 気候変動、生産コストの高騰、農業従事者の減少など、生産現場の厳しい状況を、有機農業や新たな技術を活用しながら、課題解決に取り組みます。

①第32回農法研究会（1月15日）では、「菌ちゃん先生」こと、菌ちゃんふぁーむの吉田俊道氏を講師に、身近な竹林資源や生ごみなどを活用した「菌ちゃん農法」実践例から、土壌内の菌の作用や腐敗と発酵について、野菜のファイトケミカル(抗酸化作用)について知見を深めました。ジョイファーム小田原およびサージミヤワキによる移動式電気柵を用いた鳥獣被害対策の報告では、全国で深刻化する鳥獣被害への取り組みについて知見を深めました。

②第2回オーガニック技術交流会議（2月26日）をパルシステム連合会との共催にて開催し、有機農業に取り組む生産現場の課題を共有し、農法・技術の共有を行いました。当会議をキックオフ会議と位置付け、野菜部会に有機野菜分科会を設置。分科会の活動として栽培品目別オーガニック技術情報交換会（10月9日・16日・23日）をオンラインにて開催しました。



▲会場での技術交流の様子

③米部会有機米研修会（7月3日）をJA新潟かがやき受け入れのもとで開催、有機米の育苗・除草を中心とした技術講習および電動リールとチェーン付グラスボートを用いた除草機の操作体験を実施するなど技術交流を深めました。

(2) 物価上昇の局面のなか、再生産可能な農業のあり方について、生産者と消費者で協議と理解をすすめ、食と農をとおした地域の活性化へつなげます。

①第9期第1回次世代リーダー研修（5月27日・28日）を無茶々園受け入れのもとで開催、中山間地域での再生産可能な農業、地域循環の取り組み、農業に限らず漁業の分野を含めた地域活性化の取り組みを学びました。

②東北・北海道ブロック会議を庄内協同ファーム受け入れのもとで開催、料理人・生産者・地域の協力により活動するサスティナ鶴岡の食育と地域活性化の取り組みを共有し、参加者間で地域力をテーマに意見を交わしました。

③第14回青果フォーラム（10月1日）では、エコ・チャレンジ農産物基準改定議論の経過と共に、背景にある農業生産の現状についての情報共有を行い、再生産可能な農業に向けての品質基準のあり方や農産物の価値の見直しについて意見を交わしました。

(3) 生産における地域資源を見直し、肥料・飼料問題等の課題に積極的に取り組み、食料自給率向上のために生産量増と循環の地域づくりに取り組みます。

①生消協としてオブザーバー参加し、長崎・島原地域にて開催した第6回九州農商工消連携会議（3月13日・14日）および、長野開催実行委員会受け入れにより開催した関東・中部ブロック会議（4月9日・10日）では、地域内の農商工消関係者が集い、未利用資源の活用や地域内循環について意見を交わしました。

②ニューズ受け入れのもとで開催した関西・以西ブロック会議（7月29日・30日）では、協力会会員の生産副産物を活用した肥料の情報共有をきっかけに、会員産地での試験導入につながるなど課題解決と地域循環の取り組みが広がっています。

## 2. 生産者と消費者との相互理解を深めます

### (1) 生産者・消費者・生協役職員の立場を超えた学習や交流をととして、お互いの取り組みを理解し、協力し合う関係づくりをすすめます。

- ①産直連続講座は21産地の関係者の参加により、年間で27講座を集合及びオンライン形式にて開催しました。組合員・役職員を含むのべ713名が参加し、学習・交流をととして産地の現状や生産の取り組みへの理解を深め、消費地での声を産地へ届ける活動を進めています。
- ②次世代リーダー研修は消費者幹事の参加のもと、年3回の宿泊型研修にて実施。第9期研修生による総括では、次世代が創る新たな産直のかたちとして1) 交流による好循環を生み出す関係性創出 2) アプリを活用した産地状況可視化による消費側の共感の育み 3) 本音を話せる対等な関係性の再構築 4) 変化の中での柔軟な対応と産直の継承 5) 明確なビジョンと相互の思い合い・助け合いによる地域づくりの推進 6) 援農や配送体験による相互理解の深化が挙げられました。研修開始10年の節目として次世代リーダー研修世代間交流会(12月3日)を開催し、全9期の研修卒業生による交流と総括、これからのリーダー像、今後の生消協に望むことについて議論を深め、産直の熱量を伝え新たに生み出す研修の継続と、生産者・職員・組合員が一体となった活動の深化を求む意見が多く挙げられました。
- ③センター研修はパルシステム東京(1月25日・12月12日)にて2産地2名、パルシステム山梨長野(10月10日)にて2産地2名、パルシステム群馬(3月19日・20日)にて2産地3名、パルシステム連合会(3月26日・8月9日)にて4産地4名の産地関係者の参加により、主に会員生協配送センターの職員を対象に開催しました。産地に赴くことが難しく生産者と初めて話す職員の参加も多数あり、会員産地およびパルシステム双方の取り組みや意見を共有し、関係づくりを進める良い機会となりました。



▲ 渋川センター(群馬)での研修の様子

### (2) パルシステムの産直の価値を生産者・消費者で再認識し、生産と消費の好循環へつながる活動をすすめます。

- ①会員生協配送センター学習交流企画は5生協11の配送センターにて18名の産地関係者が参加し、配送トラック等への同乗体験と共に、一部会場では職員向けの学習会や、交流企画についても開催するなど、生産と消費の現場をつなぐ機会となりました。
- ②パルシステム職員・組合員の援農実施に向けたテスト企画としてJAつくば市谷田部産直部会(6月27日)、土別農園(9月16日~18日)にてパルシステム連合会産直事業本部職員と生消協事務局による援農を実施(土別農園はパルシステム千葉職員と合同開催)。消費者運営委員会フィールドワーク(10月19日・20日)では、肥後あゆみの会による受け入れのもとで、消費者幹事および生消協事務局による援農を実施。農業現場の状況を踏まえ、今後の交流と生産の在り方検討に向けた意見交換を行いました。

### (3) 会員産地の交流の実績と情報を可視化し、情報発信を行いながら、生産者・消費者・生協役職員が参加しやすい交流の仕組みづくりに取り組みます。

- ①2025年3月には生消協の公式ホームページをリニューアルし、会員産地のSNSやパルシステムが所有する動画コンテンツへのリンクを進めました。
- ②生産者運営委員会にてSNSプロジェクトを発足し、既存の公式Facebookと共にInstagramの開設に向けた議論を開始。生消協活動や会員産地の現状を伝える取り組みを進めています。

### 3. パルシステム協力会との連携を進めます

#### (1) 生消協・協力会の双方会員の抱える課題や強みを共有し、新たな価値の創造と相乗効果のある関係性を構築します。

- ①長崎・島原地域にて開催した第6回九州農商工消連携会議（3月13日・14日）および、鹿児島・大隅地域にて開催した第5回水産産地交流会（2月21日・22日）への幹事派遣を行い、パルシステムが先行して進めてきた九州地域での連携の取り組みや、賛助会員である水産産地の現状と課題を把握しました。



▲九州農商工消連携会議の様子

- ②地域ブロックでは、関東・中部ブロック会議における長野県内協力会関係者による実行委員会企画と視察受け入れ、当日参加を含めた新たなブロック会議の開催手法実施を皮切りに、東北・北海道ブロック会議における山形県内協力会関係者の参加、関西・以西ブロック会議における四国エリアを中心とした協力会関係者の参加が実現するなど、両会会員の共通の地域を軸とした会員間での課題や強みの共有を進めました。関東・中部ブロック会議後の動きとしては、長野県内での両会会員による関係性の構築に向けた取り組みが進み、2026年には第1回生消協・協力会信州連携会議を開催することが決定しました。



▲関東・中部ブロック会議の様子

- ③生消協・パルシステム協力会双方の事務局および役員を含む生消協・協力会連携事務局会議（5月7日・9月30日）を開催。両会会員による相互交流の促進に向けた取り組みをすすめることを確認し、今後のさらなる連携の強化に向けた協議を行いました。

#### (2) 生消協・協力会の双方が行う研修会や学習会をととして相互交流を図ります。

- ①パルシステム協力会通常総会（7月1日）および秋の講演会（11月4日）への幹事派遣を行い、パルシステム協力会の活動を把握し、生消協の活動を伝える取り組みをすすめました。
- ②生消協幹事会へのオブザーバー参加として、パルシステム協力会役員2名をお招きし、生消協内での連携に向けた方向性について意見交換を行い、相互理解を深めました。

#### (3) 協力会と共にパルシステムの価値を多くの組合員へ伝えます。

- ①パルシステム協力会の活動である会員生協商品展示会では、米部会として、パルシステム連合会産直事業本部ブースへの部会産地関係者の参加を進め、産直米の取り組みや試食による商品PRを行うなど、協力会と共にパルシステムの価値を多くの組合員へ伝える取り組みを実施しました。



▲商品展示会での米部会活動の様子

## 4. パルシステム生産者・消費者協議会の活動を発展させます

### (1) パルシステム生産者・消費者協議会活動をさらに飛躍させるため、組織の枠組みについて論議を継続します。

- ①生消協における組織のスリム化の取り組みとして、第2回幹事会（4月17日）では、生産者運営委員会および消費者運営委員会の開催日程の見直しが報告された他、パルシステムの近郊産地部会と生消協野菜部会との合流、会議体のペーパーレス化、青年農業者交流会および次世代リーダー研修の見直し、生消協会議体とパルシステム連合会商務会議との同日開催、産直連続講座の産地派遣日数の制限について提案と確認がされました。
- ②第4回幹事会（11月20日）では近郊産地部会と野菜部会の合流による農法研究の統合と生産者・事務局の負担軽減（近郊産地部会夏の研修会は青果フォーラムおよび農法研究会に移行）、生産者運営委員会および幹事会、専門部会の組織の在り方議論を進めました。

### (2) 「産直四原則」への理解と生消協の魅力を発信し、その活動に共感する仲間を増やすため、生消協未会員産地への呼びかけを行います。

- ①第2回オーガニック技術交流会議（2月26日）を通じて仲間づくりの呼びかけを進め、3月には有機野菜産地であるカモスフィールド（野菜・茨城）の加入に結びつきました。
- ②連合会商務担当者との連携により、1月には産直いばらき うまがっぺ牛乳協議会（酪農・茨城）および宮本養鶏（鶏卵・千葉）、3月には徳島県として初の正会員となる四国の野菜（野菜・徳島）の計3産地の加入に結びつきました。一方で九州青果物流通センター（野菜・熊本）、埼玉産直協同（野菜・埼玉）、三浦半島 EM 研究会（野菜・神奈川）、第一清瀬出荷組合（野菜・東京）の退会により、2025年12月時点では正会員として168会員産地（前年比増減なし）・11のパルシステムグループ、賛助会員として水産9産地の合計188会員となりました。

### (3) 生消協の歴史、成り立ちを学び、それぞれの産地ビジョンに活かし、次世代へつなげます。

- ①設立35周年記念史『生消協の歴史～「生協と産地の壁」を乗り越えた人々の物語～』を発刊し、全会員へ配布を行うなど、生消協の歴史の次世代への継承をすすめています。
- ②次世代リーダー研修第1回（5月27日・28日）では大津アドバイザーを講師に、設立35周年記念史をもとに、生消協の歴史や、歴代代表幹事の時代ごとの取り組みや背景を学び、生消協の存在意義や、農業の生産現場の変革が進むなかでの産直産地の姿、ビジョン、個の利益と集団の利益について知見を深めました。



▲大津アドバイザーによる講義

- ③第6回消費者運営委員会（7月7日）では会員生協改選期に伴う新任消費者幹事向けオリエンテーションを開催。香取元代表幹事を講師に、生消協の歴史と共に、生消協が果たしてきた役割や消費者幹事の役割について、当時の資料を交えて知見を深めました。

### (4) パルシステムと共に、食料・農業問題に向き合う他団体と連携し、持続可能な地域づくりのために社会へ提起します。

- ①衆議院第二議員会館で開催された6生協による食料・農業・農村基本計画策定に伴う院内集会（3月27日）では、消費者を代表して渡部前副代表幹事、生産者を代表して西野幹事による意見表明を行うなど、持続可能な農業と食料安全保障の強化を掲げ、生産者と消費者の声を国会議員や農水省へ直接届けるため、自給率目標、担い手確保、生産コスト対策などが議論されました。

以上

2025年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表  
2025年12月31日 現在

(単位:円)

資産の部				負債及び剰余金の部			
普 通 預 金		22,839,654		未 払 金		802,606	
前 払 費 用		768,000		預 り 金		0	
未 収 金		0		仮 受 金		0	
立 替 金		0		前 受 金		0	
前 払 金		0		流 動 負 債 合 計		802,606	
流 動 資 産 合 計		23,607,654		負 債 合 計		802,606	
				前 期 繰 越 金		23,961,141	
				当 期 剰 余 金		△ 1,156,093	
				剰 余 金 合 計		22,805,048	
資 産 合 計		23,607,654		負 債・剰 余 金 合 計		23,607,654	

損益計算書

自 2025年1月1日 至 2025年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
会 費 収 入	23,388,000
収 入 計	<u>23,388,000</u>
委 託 費	3,600,000
通 信 費	274,995
旅 費 交 通 費	2,442,507
幹 事 会 費	2,503,609
生 産 者 運 営 委 員 会 費	3,394,243
消 費 者 運 営 委 員 会 費	3,026,676
ブ ロ ッ ク 会 議 費	1,939,744
部 会 活 動 補 助 費	2,240,090
調 査 研 究 費	54,000
オ ン ラ イ ン 交 流 費	10,144
広 報 費	0
会 議 費	2,807,752
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	470,250
事 務 所 負 担 費	396,000
会 計 委 託 費	198,000
渉 外 費	289,120
ア ド バ イ ザ ー 経 費	288,303
消 耗 品 費	1,071
雑 費	147,862
予 備 費	500,000
支 出 計	<u>24,584,366</u>
事 業 剰 余 金	△ 1,196,366
雑 収 入	40,273
当 期 剰 余 金	<u>△ 1,156,093</u>
前 期 繰 越 金	23,961,141
次 期 繰 越 金	<u><u>22,805,048</u></u>

# 2025年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算実績比較表

自 2025年 1月 1日 至 2025年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目(補助科目)	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
<b>収入</b>					
会費収入(生産者)	12,828,000	12,388,000	△ 440,000	96.6%	24年12月入金の25年度会費440,000円を前年度収入に計上したため、同額で予算増減額が生じていますが、会費入金は予算通りとなります
会費収入(パルシステムグループ)	11,000,000	11,000,000	0	100.0%	
合計	23,828,000	23,388,000	△ 440,000	98.2%	
<b>支出</b>					
委託費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局業務委託費
通信費	400,000	274,995	△ 125,005	68.7%	
(カタログ発送費)	200,000	116,904	△ 83,096	58.5%	発送費、カタログデータ管理費
(その他通信費)	200,000	158,091	△ 41,909	79.0%	回線使用料、宅配料等
旅費交通費	3,100,000	2,442,507	△ 657,493	78.8%	
(公開確認会派遣)	800,000	545,616	△ 254,384	68.2%	5会場(海外1会場含む)へ監査人を派遣※2
(産直連続講座交通費)	900,000	438,010	△ 461,990	48.7%	27講座中15講座へ産地関係者を現地派遣
(ブロック会議交通費)	700,000	1,189,223	489,223	169.9%	ブロック会議(催事)へ他ブロック役員・幹事を派遣
(その他派遣費用)	700,000	269,658	△ 430,342	38.5%	パルシステム総代会、関連催事等へ幹事派遣※2
幹事会費	2,900,000	2,503,609	△ 396,391	86.3%	
(旅費交通費)	1,800,000	1,702,631	△ 97,369	94.6%	幹事会(2・4・7・11月)、その他幹事派遣に関わる旅費
(活動補助費)	1,100,000	800,978	△ 299,022	72.8%	7月幹事会宿、4・11月外部会場費等
生産者運営委員会費	3,700,000	3,394,243	△ 305,757	91.7%	
(旅費交通費)	1,500,000	1,785,000	285,000	119.0%	生産者運営委員会(4・8・10月)旅費
(活動補助費)	450,000	247,139	△ 202,861	54.9%	産直連続講座26講座のうち15講座のサンプル補助、4月生産者運営委員会外部会場費等※2
(リーダー研修補助)	1,000,000	1,027,263	27,263	102.7%	実行委員会、5月無茶々園視察、10月講師料、12月世代間交流会費※2
(センター研修補助)	750,000	334,841	△ 415,159	44.6%	会員生協5会場の研修地へ産地関係者を派遣※2
消費者運営委員会	2,800,000	3,026,676	226,676	108.1%	
(青年農業者交流会)	600,000	458,436	△ 141,564	76.4%	会場費、講師料、消費者幹事派遣費
(女性農業者交流会)	600,000	1,026,322	426,322	171.1%	会場費、講師料、幹事派遣、会員生協開催補助費等
(旅費交通費)	1,300,000	1,073,723	△ 226,277	82.6%	消費者運営委員会(年11回中9回分旅費)、山形研修・熊本フィールドワーク旅費を含む※2
(その他活動補助費)	300,000	468,195	168,195	156.1%	講師料、山形研修・フィールドワーク交流費等※2
ブロック会議費	2,100,000	1,939,744	△ 160,256	92.4%	
(関東・中部)	600,000	395,653	△ 204,347	65.9%	ブロック会議補助・事前視察、役員会、配送センター学習交流企画産地関係者派遣費※2
(東北・北海道)	700,000	479,471	△ 220,529	68.5%	ブロック会議補助、役員会※2
(関西・以西)	800,000	1,064,620	264,620	133.1%	ブロック会議補助・事前視察、第3回若手生産者交流会開催費・実行委員会費※2
(合同)	0	0	0	0.0%	会場費等(2025年は東新宿本部開催のため未計上)
部会活動補助費	3,500,000	2,240,090	△ 1,259,910	64.0%	
(米部会)	700,000	222,239	△ 477,761	31.7%	有機米研修会、商品展示会8会場に産地関係者を派遣※2
(野菜部会)	1,000,000	650,660	△ 349,340	65.1%	青果フォーラム、有機野菜分科会、青果の見える化分析費※2
(果樹部会)	600,000	270,804	△ 329,196	45.1%	品目別3部会活動、役員会、果樹サミット開催費※2
(畜産部会)	700,000	628,170	△ 71,830	89.7%	おいしさの見える化分析費、アニマルウェルフェア学習会※2
(鶏卵部会)	500,000	468,217	△ 31,783	93.6%	味覚検査、平飼いたまご交流会、配送センター学習・同乗体験※2
調査研究費	100,000	54,000	△ 46,000	54.0%	BMW技術協会会費、産直データブック購入費
オンライン交流費	50,000	10,144	△ 39,856	20.3%	レンタルWi-Fi等、オンライン機材貸し出し費
広報費	600,000	0	△ 600,000	0.0%	加入説明費、リーフレット作成費※2
会議費	3,800,000	2,807,752	△ 992,248	73.9%	
(総会費用)	2,000,000	1,637,793	△ 362,207	81.9%	会場費、講師料、議案書作成費、会員生協別交流会補助
(農法研究会)	800,000	780,384	△ 19,616	97.5%	講師料、会場費
(協力会との交流)	1,000,000	389,575	△ 610,425	39.0%	協力会催事への幹事派遣、連携会議幹事派遣、協力会展示会レポート発送、交流費※2
ホームページ運営費	900,000	470,250	△ 429,750	52.3%	メンテナンス費、HP改修費(第2期)※2
事務所負担費	396,000	396,000	0	100.0%	連合会生消協ブース使用料
会計委託費	198,000	198,000	0	100.0%	連合会への経理業務委託料
渉外費	350,000	289,120	△ 60,880	82.6%	慶弔関係費、お見舞金
アドバイザー経費	300,000	288,303	△ 11,697	96.1%	アドバイザー旅費交通費
消耗品費	30,000	1,071	△ 28,929	3.6%	文具等
雑費	150,000	147,862	△ 2,138	98.6%	振込手数料、ネットバンキング利用手数料
予備費	2,000,000	500,000	△ 1,500,000	25.0%	自然災害対応予備費※1 設立35周年記念史作成費※2
合計	30,974,000	24,584,366	△ 6,389,634	79.4%	
事業剰余金	△ 7,146,000	△ 1,196,366	5,949,634	16.7%	
雑収入	0	40,273	40,273		預金利息
剰余金	△ 7,146,000	△ 1,156,093	5,989,907	16.2%	
前期繰越金	23,961,141	23,961,141	0	100.0%	
次期繰越金	16,815,141	22,805,048	5,989,907	135.6%	※3

※1 自然災害対応予備費については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 重点活動予算として2025年度は8,100,000円を各活動に配分し、2,511,076円(31.0%)を執行しています。

※3 周年事業を実施する費用として5,000,000円の目標に対し、2020~2025年度まで毎年500,000円の周年事業積立金を積み立てており、残高は3,000,000円です。この金額は次期繰越金に含まれています。

2026年1月26日

パルシステム生産者・消費者協議会

監事 澤村 輝彦

監事 井上 詠子



## 監 査 報 告 書

次のように2025年度決算監査を行いましたので下記に報告いたします。

### 1. 監査日時

2026年1月26日(月) 16:00~16:45

### 2. 監査形式

パルシステム連合会東新宿本部3階会議室および  
Zoomを使用したハイブリッド形式による監査

### 3. 監査立会人

パルシステム生産者・消費者協議会	代表幹事	小川 保
パルシステム連合会 管理本部経理部	経理2課課長	日野 道子
	経理2課	野矢 隆史
パルシステム生産者・消費者協議会	事務局	安藤 宏行
		七原 素子
		坂本 徹

### 4. 監査範囲及び方法

予算実績比較表、貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳の提出を求め、監査を行いました。

### 5. 監査意見

- (1) 会計収支は適正に処理されていることを認めます。
- (2) 未執行予算があることから、創意工夫による活動の活性化と共に、次世代の担い手を育成する取り組みへの弾力的運用による予算執行を求めます。

以上

## 第2号議案

# 2026年度活動方針案並びに予算案承認の件

### 《2026年度活動方針案》

「～産直による地域づくりでもっといい明日へ超えてく！～」

#### 1. 持続可能な農業生産を推進します

- (1) 気候変動、生産コストの高騰、農畜水産業従事者の減少など、生産現場の厳しい状況に対し、有機農業の推進や新たな技術の活用、栽培実験を行いながら、課題解決に取り組みます。
- (2) 地域資源を見直し、生産の拡大と資源循環をすすめ、地域に欠かせない産地をめざします。
- (3) 農畜水産業の人材が育つ環境づくりを積極的にすすめます。

#### 2. 生産者と消費者との相互理解を深めます

- (1) パルシステムの産直の価値を生産者・消費者双方が再認識し、学習と交流、商品利用による相互理解を深め、好循環につながる協力関係を築きます。
- (2) 再生産可能な農業のあり方について論議を深め、食と農をとおして地域の活性化へつなげます。
- (3) 会員産地の交流の実績と情報を可視化し、ホームページやSNSなどでの情報発信を行いながら、利用促進につながる仕組みの提案や、生産者・消費者・生協役職員が参加しやすい交流・援農の仕組みづくりに取り組みます。

#### 3. パルシステム協力会との連携を進めます

- (1) 生消協・協力会会員の強みや課題を共有し、相乗効果のある関係性を構築しながら、新たな価値を創造し多くの消費者に共有します。
- (2) 生消協・協力会の研修会や学習会などをとおして交流を深め、共創による課題解決を図ります。
- (3) 生消協・協力会の連携会議を定期的に開催し、相互参加による協力体制を強化します。

#### 4. パルシステム生産者・消費者協議会の活動を発展させます

- (1) パルシステム生産者・消費者協議会活動をさらに飛躍させるため、組織の枠組みについて論議を継続します。
- (2) 「産直四原則」への理解と生消協の魅力の発信や、生消協未会員産地への呼びかけを継続し、活動に共感する仲間を増やします。
- (3) 若手生産者の活躍、学習、交流の場を創出し、次世代へつなげ、生消協を担う生産者を育成します。
- (4) 生消協ビジョンを明確にし、会員産地のビジョンにつなげます。

以上

# パルシステム生産者・消費者協議会 2026年度予算案

自 2026年 1月 1日 至 2026年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目(補助科目)		2026年度予算案	2025年度予算差	構成	備考
収入	会費収入(生産者)	13,158,000	330,000	54.5%	
	会費収入(パルシステムグループ)	11,000,000	0	45.5%	
	合計	24,158,000	330,000	100.0%	
支出	委託費	3,600,000	0	11.0%	事務局業務委託費
	通信費	400,000	0	1.2%	
	(カタログ発送費)	200,000	0		発送費、カタログデータ管理費
	(その他通信費)	200,000	0		回線使用料、宅配料等
	旅費交通費	3,300,000	200,000	10.1%	
	(公開確認会派遣)	1,000,000	200,000		8会場(海外1会場)へ監査人を派遣 ※2
	(産直講座派遣)	1,000,000	100,000		1会員生協あたり最大8講座へ5部会会員産地関係者を派遣 ※2 ※5
	(ブロック会議派遣)	900,000	200,000		ブロック会議(催事)へ他ブロック役員・幹事を派遣 (消費者幹事は合同ブロック会議派遣を含む) ※2
	(その他派遣費用)	400,000	△ 300,000		会員生協総代会等へ幹事派遣
	幹事会費	3,200,000	300,000	9.8%	
	(旅費交通費)	1,800,000	0		幹事会旅費(4回)、その他幹事派遣に関わる旅費
	(活動補助費)	1,400,000	300,000		講師料、幹事会合宿費 ※2
	組織検討委員会費	800,000	800,000	2.4%	
	(旅費交通費)	600,000	600,000		組織検討委員会およびプロジェクト実行委員会費 ※2 ※5
	(活動補助費)	200,000	200,000		会場費、講師料 ※2 ※5
	生産者運営委員会費	4,450,000	750,000	13.6%	
	(旅費交通費)	1,500,000	0		生産者運営委員会旅費(4回)
	(活動補助費)	450,000	0		講師料、産直講座開催補助 ※2 ※5
	(青年農業者交流会)	600,000	600,000		会場費、講師料、消費者幹事派遣費 ※4
	(リーダー研修補助)	900,000	△ 100,000		会場費、講師料、視察費、消費者幹事派遣費、実行委員会費
	(センター研修補助)	1,000,000	250,000		会員生協へ会員産地関係者を派遣、会員産地での生協職員による 援農等研修費補助 ※2
	消費者運営委員会費	2,700,000	△ 100,000	8.3%	
	(女性農業者交流会)	800,000	200,000		会場費、講師料、現地移動費、交流体験費 ※2
	(旅費交通費)	1,300,000	0		消費者運営委員会(11回中3回オンライン開催)、 研修旅費、学習交流企画 ※2
	(その他活動補助費)	600,000	300,000		講師料、研修交流費 ※2
	ブロック会議費	2,200,000	100,000	6.7%	
	(関東・中部)	700,000	100,000		ブロック会議補助および実行委員会、役員会、 会員生協配送センター学習交流企画派遣費 ※2
	(東北・北海道)	700,000	0		ブロック会議補助および事前視察、学習会開催費 ※2
	(関西・以西)	800,000	0		ブロック会議補助および事前視察、若手生産者交流会開催費 ※2
	(合同)	0	0		会場費等(2026年度は東新宿本部開催のため未計上)
	部会活動補助費	3,900,000	400,000	11.9%	
	(米部会)	700,000	0		米産地研修会開催費、商品展示会出展関連費 ※2
	(野菜部会)	1,000,000	0		青果フォーラム、4分科会活動費、役員会 ※2
	(果樹部会)	1,000,000	400,000		3分科会活動、果樹サミット、新品種(苗木)栽培試験補助 ※2
	(畜産部会)	700,000	0		おいしさの見える化分析費、アニマルウェルフェア学習会、 配送センター学習交流企画、商品展示会出展関連費 ※2
	(鶏卵部会)	500,000	0		鶏卵学習会、交流会等 ※2
	調査研究費	100,000	0	0.3%	産直データブック、BMW技術協会会費
	オンライン交流費	50,000	0	0.2%	レンタルWi-Fi等、オンライン機材貸し出し費
	広報費	600,000	0	1.8%	加入説明費、リーフレット作成費 ※2
	会議費	4,200,000	400,000	12.8%	
	(総会費用)	2,200,000	200,000		会場費、講師料、会員生協別交流会補助 ※2
	(農法研究会)	1,000,000	200,000		会場費、講師料 ※2
	(協力会との交流)	1,000,000	0		合同学習会開催費、会議費、交流費、協力会催事への部会会員 産地関係者派遣に伴う関連費用 ※2
	ホームページ運営費	300,000	△ 600,000	0.9%	メンテナンス費
	事務所負担費	396,000	0	1.2%	半期毎の支払い
	会計委託費	198,000	0	0.6%	半期毎の支払い
	渉外費	350,000	0	1.1%	慶弔関係費
アドバイザー経費	300,000	0	0.9%	アドバイザー旅費交通費	
消耗品費	30,000	0	0.1%	文具等	
雑費	150,000	0	0.5%	振込手数料・ネットバンキング利用手数料	
予備費	1,500,000	△ 500,000	4.6%	自然災害対応予備費 ※1	
合計	32,724,000	2,050,000	100.0%		
事業剰余金	△ 8,566,000	△ 1,420,000			
雑収入	0	0			
剰余金	△ 8,566,000	△ 1,420,000			
前期繰越金	22,805,048	△ 1,156,093			
次期繰越金	14,239,048	△ 2,576,093		※3	

※1 予備費については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 重点活動予算として2026年度は8,350,000円を各活動に配分しています。

※3 周年事業を実施する費用として5,000,000円の目標に対し、2020~2026年度まで毎年500,000円の周年事業積立金を積み立てており、残高は3,500,000円です。この金額は次期繰越金に含まれています。

※4 青年農業者交流会はこれまで消費者運営委員会費にて計上していましたが、2026年度より生産者運営委員会費での計上に変更しています。

※5 2026年度より組織検討委員会費を新設、産直連続講座は産直講座に改称となります。

# —資料—

- 2025年度 主要活動日誌
- 幹事会活動状況
- 監事会活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 地域ブロック活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 次世代リーダー研修活動状況
- センター研修活動状況
- 専門部会活動状況
- 公開確認会活動状況
- 産直連続講座活動状況
- 生消協規約・規程

## 《2025年度 主要活動日誌》

月	日	会議・企画名	会場等
1月	6日	第1回消費者運営委員会	東新宿本部
	15日	第32回農法研究会 賀詞交歓会	新ニッショーホール 品川プリンスホテル
	16日	合同ブロック会議 第1回生産者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド) 東新宿本部(ハイブリッド)
	27日	第2回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	1月31- 2月1日	消費者運営委員会研修会	1日目:パル・ミート山形工場 2日目:天童果実同志会(山形)
2月	7日	第1回幹事会	東新宿本部(ハイブリッド)
	20日	畜産部会(第1回)	オンライン
	27日	2025果樹サミット	快・決いい会議室
3月	3日	第3回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	5日	第36回通常総会	有楽町朝日ホール
	6日	会員生協別交流会	各会員生協会場
	14日	鶏卵部会たまご会議/コア・フードたまご会議	東新宿本部(ハイブリッド)
	25日 28日	第1回米部会 果樹部会 りんご部会農法検討会	東新宿本部 オンライン
4月	9-10日	関東・中部ブロック会議	1日目:全体会 佐久平交流センター 2日目:視察 佐久ゆうきの会 信越明星、デイリーフーズ(長野) 東新宿本部(ハイブリッド)
	17日	第4回消費者運営委員会 第2回生産者運営委員会 第2回幹事会	新宿コズミックスポーツセンター(ハイブリッド)
	18日	果樹部会 みかん部会農法検討会	オンライン
5月	27-28日	第1回次世代リーダー研修	無茶々園(愛媛)
6月	3日	第5回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	6日	鶏卵部会 たまご会議/コア・フードたまご会議	東新宿本部(ハイブリッド)
	19日	第2回畜産部会	オンライン
7月	3日	米部会 有機米研修会	JA新潟かがやき(新潟)
	7日	第6回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	9-10日	東北・北海道ブロック会議	1日目:全体会(東京第一ホテル鶴岡) 2日目:視察 庄内協同ファーム JA庄内たがわ(山形)
	10-11日	果樹部会 みかん部会	さんまる柑橘同志会・紀ノ川農協・ しもつコープファーム(和歌山)
	17-18日 29-30日	幹事合宿(新旧役員懇談会・第3回幹事会) 果樹部会 りんご部会農法検討会	1日目:東新宿本部(ハイブリッド) 2日目:AP東新宿(ハイブリッド) 雄勝りんご生産同志会(秋田)
8月	4日	第7回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	6日	第3回生産者運営委員会	岩槻セットセンター大会議室(ハイブリッド)
9月	2-3日	第3回関西・以西ブロック若手生産者交流会	真南風・恩納村(沖縄)
	4-5日	鶏卵部会 たまご会議/コア・フードたまご会議	1日目:熊谷SC 2日目:花園たまや(埼玉)
	8日	第8回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
10月	1日	第14回青果フォーラム	AP東新宿(ハイブリッド)
	6日	第9回生産者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	9・16・23日 19-20日	野菜部会有機野菜分科会オーガニック技術情報交換会 消費者運営委員会フィールドワーク	オンライン 肥後あゆみの会(熊本)
	28-29日	第2回次世代リーダー研修	1日目:岩槻SC 2日目:青果小分け視察・岩槻SC
	30日 31日	第4回生産者運営委員会 第10回消費者運営委員会 生産者・消費者合同会議 第3回畜産部会	東新宿本部(ハイブリッド) パル・ミート習志野事業所
11月	6-7日	第24回女性農業者交流会	1日目:全体会(新横浜グレイスホテル) 2日目:会員生協別会場
	12-13日	青年農業者交流会	ジェイラップ(福島)
	20日	第4回幹事会	快・決いい会議室(ハイブリッド)
12月	2日	第2回米部会	東新宿本部(ハイブリッド)
	2-3日	1日目:第3回次世代リーダー研修 2日目:次世代リーダー研修世代間交流会	1日目:快・決いい会議室 2日目:東新宿本部
	4日	鶏卵部会 たまご会議/コア・フードたまご会議	東新宿本部(ハイブリッド)
	8日	第11回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	11日	果樹部会 山梨フルーツ部会	笛吹市御坂生涯学習センター

## 《幹事会 活動状況》

月日	開催場所	議題
2月7日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2025年4月以降のアドバイザー契約について ・第36回通常総会議案承認の件 ・第36回通常総会の運営について
4月17日	新宿コズミックスポーツセンター (ハイブリッド)	・第36回通常総会・フォーラム・会員生協別交流会振り返り ・組織のスリム化に向けた意見交換 ・富良野青果センター火災に伴うお見舞金贈呈 ・パルシステム協会との連携事例報告
7月17-18日	1日目:東新宿本部 (ハイブリッド) 2日目:AP東新宿(ハイブリッド)	【1日目】・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 ・2025年度活動方針と中間進捗 ・ディスカッション～方針進捗を踏まえ下期に行いたいこと～ ・生消協記念史報告 【2日目】・SNSについての学習会(講師:PR社 左海氏)
11月20日	快・決いい会議室(ハイブリッド)	・2026年1～3月の催事について ・2026年度活動方針および予算案(1次案) ・2025年度決算見直しおよび中間監査報告について ・2026年度活動スケジュール案

## 《監事会 活動状況》

開催日	開催場所	議題
9月26日	オンライン	2025年1月1日～6月30日までの半期決算監査
26年1月26日	東新宿本部(ハイブリッド)	2025年1月1日～12月31日までの年間決算監査

## 《生産者運営委員会 活動状況》

月日	開催場所	議題
1月16日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2025年度活動方針案および予算案(2次案) ・2025年度活動スケジュール案(部会・催事) ・次期役員人事案 ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告
4月17日	新宿コズミックスポーツセンター (ハイブリッド)	・生消協SNSプロジェクト設置について ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告
8月6日	岩槻セットセンター (ハイブリッド)	・青果小分け・岩槻セットセンター視察 ・次世代子どもサミット(親子企画)開催検討について ・集中討議①今後の米の産直、飼料米②畜産飼料・耕畜連携 ③気候変動や人手不足の現状と今後の対応④これからの物流 ⑤今後のエコ・チャレンジ、有機農産物⑥今後の産直事
10月30日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・年始3催事および通常総会・会員生協別交流会について ・2026年度専門部会・地域ブロック活動案および予算案について ・生消協SNSプロジェクトについて

## 《地域ブロック 活動状況》

開催日	地域ブロック(受け入れ)	概要
4月9-10日	関東・中部ブロック会議 (長野開催実行委員会)	【1日目】・長野県内協力会・生消協会員報告 ・事例共有:パルシステムにおける商品づくりの取り組み ・グループディスカッション 【2日目】視察:佐久ゆづきの会・信越明星・デイリーフーズ
7月9-10日	東北・北海道ブロック会議 (庄内協同ファーム)	【1日目】・受け入れ産地報告(地域連携でつくる持続可能な産地の未来) ・講演(豊食を繋ぐ 食を通じ子供たちの未来をはぐくむ)サステイナブル ・グループディスカッション 【2日目】視察:対馬ミニライスセンター米左衛門、庄内協同ファーム
7月29-30日	関西・以西ブロック会議 (ニューズ)	【1日目】・受け入れ産地報告「本気のみかんで幸せを届ける」ニューズ ・グループディスカッション 【2日目】視察:ニューズ 本社・集出荷場・みかん山(圃場)
9月2-3日	第3回関西・以西ブロック 若手生産者交流会 (真南風・恩納村)	【1日目】・パルシステム概要と産直の取り組みについて ・パルシステム生産者・消費者協議会について ・グループディスカッション 【2日目】視察:勝山シークワサー(真南風)、 農地の赤土等流失防止の取り組み(恩納村)

## 《消費者運営委員会 活動状況》

月日	開催場所	議題
1月6日	東新宿本部	・2025年度活動方針<意見共有・方針文言検討> ・2025年度消費者運営委員会活動および関連予算案(2次案)
1月27日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2025年度消費者運営委員会活動・活動方針および予算案(3次案) ・会員生協別交流会事前共有 ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告
1月31-2月1日	パル・ミート山形事業所 天童果実同志会	・畜産生産の窮状と市況高騰の中での畜産加工品の現状と取り組みを学ぶ ・気候変動による果樹生産の現状と展望、天童果実同志会の取り組みを学ぶ
3月3日	オンライン	・2025年度女性農業者交流会の進め方について ・2025年度消費者運営委員会フィールドワークについて ・2025年度消費者運営委員会活動および会場について ・報告(エコ・チャレンジ検討会・第1回畜産部会・第5回水産産地交流会 第2回オーガニック技術交流会議・2025果樹サミット)
4月17日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・総会および会員生協別交流会振り返り ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 ・2025年度消費者運営委員会フィールドワークについて ・第24回女性農業者交流会開催概要検討
6月3日	東新宿本部	・2025年度消費者運営委員会フィールドワークについて ・第24回女性農業者交流会 講師・全体会行程検討
7月7日	東新宿本部	・消費者運営委員長互選 ・オリエンテーション ①(生消協規約規程・組織体系・役割について) 講師:小川代表幹事 ②(生消協の歴史とこれまでの活動について) 講師:香取元代表幹事
8月4日	オンライン	・第24回女性農業者交流会全体会の内容検討および次回開催地について ・報告(米部会有機米研修会、東北・北海道および関西・以西ブロック会議) ・2025年度フィールドワークについて
9月8日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・女性農業者交流会全体会および会員生協別開催案の共有 ・報告(近郊産地部会総会・第3回関西・以西ブロック若手生産者交流会) ・フィールドワーク事前学習会 講師:澤村監事
10月6日	東新宿本部	・3月会員生協別交流会開催概要検討について ・女性農業者交流会全体会の進め方 ・消費者運営委員会フィールドワークについて
10月19-20日	肥後あゆみの会(熊本)	・有機農業の現状把握 ・パルシステムと産直産地で進める担い手・援農施策の把握
10月30日	東新宿本部	・消費者運営委員会フィールドワーク振り返り ・女性農業者交流会(全体会)最終確認 ・今後の消費者運営委員会活動について
12月8日	東新宿本部	・2026年度活動方針(会員生協意見)検討 ・消費者運営委員会研修訪問地について ・組織検討委員および女性農業者交流会実行委員選任について ・報告(第24回女性農業者交流会報告・青年農業者交流会)

## 《次世代リーダー研修 活動状況》

開催日	開催場所	内容
5月27-28日	第1回 (無茶々園)	【1日目】講演「パルシステム産直のこれまでとこれから」大津アドバイザー 【2日目】視察:(アコヤ貝洗浄・真珠核入れ、ちりめん製造、みかん搾りかす 堆肥製造、スジアオノリ養殖、みかん圃場、皆田出荷場)
10月28-29日	第2回 (岩槻セットセンター)	【1日目】講演『革命を起こす新技術ZEROCO～食産業全体の連携による新しい時代に適した社会システム発展のために～』 宮谷 将徳 様 (ZEROCO株式会社 取締役) ・講義『パルシステムの産直事業とめざすもの』 佐藤 哲郎 様 (パルシステム連合会 第1 産直部長) ・1 日目の講義を受けての全体ディスカッション テーマ① 生協という食料供給の取り組みについて テーマ② パルシステムまたは産地(生産団体)として鮮度保持技術を 活用できるとしたらどのようなことが想定できるか テーマ③ 日本や世界の食糧生産、人口増減等、食の流通や農業に おける現在と未来像について 【2日目】グループディスカッション テーマ① パルシステムの産直事業とは何か テーマ② パルシステムと産地がめざすものは何か
12月2-3日	1日目:第3回 (快・決いい会議室) 2日目:世代間交流会 (東新宿本部)	【1日目】トークセッション:研修卒業1期生から学ぶ ～リーダー研修で得たもの・繋がり・活かされていること～ 豊下 大輔 様 (ポーランドグループ ノースランド 取締役) 飯泉 厚彦 様 (JAつくば市谷田部産直部会 副部会長) 王隠堂 正悟 様 (大紀コープファーム 取締役) 大格 哲夫 様 (パルシステム連合会 第2産直部 部長) ・研修総括に向けたグループディスカッション ～リーダー研修で得たもの 今後に生かすこと～ 【2日目】第1期から第8期 若手リーダー&次世代リーダー研修卒業生紹介 ・第9期次世代リーダー研修生による研修総括発表 ・グループディスカッションおよび全体ディスカッション テーマ① パルシステム・産地・メーカーこれからのリーダー像とは テーマ② 今後の生消協研修に継承すること・新たに求めること テーマ③ 10年後の産直のために生消協に望むこと

## 《センター研修 活動状況》

開催日	開催場所	内容
1月25日	パルシステム東京 江戸川センター	参加産地【富良野青果センター】 江戸川センターまつりでの職員・組合員交流、商品説明・試食販売の実施
10月10日	パルシステム山梨 長野 甲斐センター	参加産地【ボークランドグループ・オーリア21】 産地紹介プレゼンと営業職員によるテーブルトーク形式の交流
12月12日	パルシステム東京 足立センター	参加産地【無茶々園】職員向けの産地紹介・学習会

## 《専門部会 活動状況》

(米部会)

開催日	催事名・開催場所	議題
3月25日	東新宿本部(ハイブリッド)	・生消協総会報告 ・2025年度活動について
7月3日	JA新潟かがやき	・受け入れ産地挨拶 (JA新潟かがやき ささかみ米産直部会 部会長 青木 等様) ・有機栽培講義 (農事組合法人 夢の谷ファーム 石塚 美津夫様) ・夢の谷ファーム圃場説明と技術講義、除草機実演
12月	東新宿本部(ハイブリッド)	・2026年度方針 ・2025年上期の品質事故報告他

(野菜部会)

開催日	開催場所	議題
10月1日	【青果フォーラム】 AP東新宿(ハイブリッド)	【第1部】・エコ・チャレンジ農産物基準改定および農業生産の現状について ・エコ・チャレンジ見直しに至る経緯と背景(振り返り)および産地・組合員 論議、改定案についてのアンケート共有 【第2部】・近郊産地部会との合流および2026年1月以降の品目別分科会設置報告 ・野菜部会のこれからの取り組みに関する意見交換
10月9日 10月16日 10月23日	有機野菜分科会 品目別技術情報交換会 (葉菜・果菜・根菜)	【第1部】・エコ・チャレンジ農産物基準改定および農業生産の現状について ・エコ・チャレンジ見直しに至る経緯と背景(振り返り)および産地・組合員 論議、改定案についてのアンケート共有 【第2部】・近郊産地部会との合流および2026年1月以降の品目別分科会設置報告 ・野菜部会のこれからの取り組みに関する意見交換

(果樹部会)

開催日	開催場所	議題
2月27日	【果樹サミット】 (快・決しい会議室)	・パネルディスカッション「気候、パルシステムと産地の変遷から見る果物の今後」 JF小田原 長谷川様・サンファーム下川様・御坂うまいもの会 雨宮 様 連合会 市川様
12月11日	【山梨フルーツ会議】 (笛吹市御坂生涯学習センター)	・エコ・チャレンジ見直し検討会 進捗報告 ・生消協果樹部会 活動報告(桃・ぶどう類・すもも)

※その他、品目ごとの活動および果樹ミーティングを開催

(畜産部会)

開催日	開催場所	議題
2月20日	オンライン	・産地の見える化 ・アニマルウェルフェア学習会 ・世界と日本のAW、日本の食品の流通・外食産業におけるAW商品の動向
6月19日	オンライン	・2025年度 部会活動方針 ・産地の見える化 ・畜種別グループ意見交換会
10月31日	パル・ミート習志野事業所	・報告事項「産地の見える化」鶏)ホワイトファーム 豚)山口養豚 牛)ノーザンび〜ふ ・「おいしさの見える化」の報告と試食 ・2025年度活動報告および2026年度方針(案)

(鶏卵部会)

開催日	開催場所	議題
3月14日	オンライン	・商品の特徴、訴求のポイントについて(グループワーク) ・鶏卵部会 ビジョン、部会活動について
6月6日	東新宿(ハイブリッド)	・休業期間の鶏卵産地応援(もったいない)企画について ・加工品への活用について ・飼料米手配について
9月4日-5日	1日目:熊谷SC 2日目:花園たまや視察	・商品事故事例の共有と対策について ・味覚調査の結果について ・パルシステム生産者・消費者協議会「2026年度鶏卵部会活動」について ・グループ意見交換
12月12日	東新宿(ハイブリッド)	・11月1日開催の平飼いたまご交流会について ・25年度 商品展示会、学習会について ・パルシステム生産者・消費者協議会「2026年度鶏卵部会活動」について ・年末年始供給スケジュール及び1月1回「配達休みに産まれた産直たまご」について ・納入価格について意見交換

## 《公開確認会 活動状況》

開催日	開催地	開催産地(略称)	監査品目	主催生協	派遣役員(監査人)
3月19-23日	連合会	ゼスプリ	有機キウイフルーツ	パルシステム連合会	鶴田 洋平(生産者幹事)
7月12-13日	東京	花兄園	産直たまご	パルシステム東京	梅原 正一(鶏卵部会長)
10月22日	福島	旬彩ファーム	有機人参	パルシステム福島	金谷 雅幸(生産者幹事)
11月12日	群馬	群馬南部モグラ会(マルタ)	有機小松菜	パルシステム群馬	倉林 永(関東・中部副ブロック長)
12月11-12日	宮崎	イシハラフーズ	ほうれんそう(加工用)	パルシステム連合会	佐藤 大輔(野菜部会副部会長)

## 《産直連続講座 活動状況》

開催日	会員生協	開催産地(略称) オンライン使用は★印	講義内容	参加人数
1月10日	静岡	奥中山	生産者紹介・牧場中継・商品概要と酪農業について・質疑応答	27
1月15日	千葉	菜の花エッグ	たまごの学習(鶏の飼育から流通管理)・卵の調理実習・試食交流	18
1月24日	茨城栃木	北浦軍鶏農場	商品利用促進を目的とした学習会。調理・昼食交流	39
6月26日	福島	伊豆鶏業	卵の味比べ実演・取り組み学習会	14
7月21日	東京	謙信の郷★	産地紹介・米情勢について・交流・質疑応答	30
8月2日	神奈川	米沢郷	産直鶏学習会・産地紹介・クイズ・体験企画・試食交流・質疑応答	45
8月4日	東京	山形コーブ豚	学習会(産地紹介)・質疑応答・ウイナーづくり・試食交流会	32
8月25日	茨城栃木	中山食茸★	プレゼンテーション・質疑応答・昼食交流・アンケート記入	30
8月29日	埼玉	JF小田原★	学習会(産地紹介・交流・みかんの逆襲)SNSレシピ紹介・試食・質疑応答	33
	静岡	さみず★	学習会(産地紹介)クイズ・圃場中継によるりんご栽培について・質疑応答	32
9月6日	東京	中山食茸★	講師紹介・産地紹介・交流・質疑応答	30
9月10日	山梨長野	花兄園★	調理・試食・卵の食べ比べ・交流・質疑応答・感想発表・記念撮影等	16
9月23日	千葉	宮本養鶏	学習会(産地紹介・養鶏の話・豆知識)組合員調理 昼食交流	20
10月3日	福島	JAつくば市谷田部	産地紹介・栽培の様子・質疑応答・昼食交流	22
10月8日	千葉	AIC	産直たまごの試食・学習会	29
10月8日	山梨長野	さみず★	産地紹介・質疑応答・記念撮影・りんご使用ランチの試食交流・感想	20
10月24日	埼玉	菜の花エッグ★	産地紹介・産直たまご学習会・試食・質疑応答	29
10月28日	千葉	さみず★	産地紹介・圃場中継・りんごレシピ紹介・質疑応答	19
11月11日	千葉	米沢郷牧場★	圃場見学・産地紹介・調理実演・参加者感想	18
11月17日	山梨長野	までっこチキン★	産直鶏学習会・産地紹介・質疑応答・試食交流・感想発表・記念撮影等	31
11月20日	茨城栃木	しもつ	糖度差みかん食べ比べ・ジュース飲み比べ・質疑・昼食交流・アンケート	25
11月27日	千葉	JAこまち	きりたんぼ作り・産地紹介・試食交流	27
12月1日	福島	ポークランド	産直豚学習会・産地紹介・昼食交流・参加者感想・集合写真撮影	32
12月9日	静岡	までっこチキン★	産直鶏・までっこ鶏学習会・鶏舎中継・バイオマス発電について	24
12月13日	東京	無茶々園	産地紹介・学習会・質疑応答	44
12月19日	埼玉	山形コーブ豚★	産直豚学習会・豚舎動画視聴・質疑応答・試食交流会・参加者感想	31
合計参加人数				717

※会員生協の開催報告書をもとに事務局にて一部加筆・修正いたしました。

パルシステム生産者・消費者協議会

組 織 規 約

1990年設立総会 制定  
2001年第12回総会 一部改訂  
2006年第17回総会にて補強  
2007年第18回総会 一部改訂  
2011年第22回総会 一部改訂  
2013年第24回総会 一部改定  
2021年第32回総会 一部改定  
2024年第35回総会 一部改定

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)パル・ミートをもって構成する。

2. 農畜産物生産者以外の生産団体は賛助会員となることができる。この場合、総会での議決権を有しない。
3. この会の加入、退会は幹事会が承認する。
4. 以下の者は会員資格を喪失する。
  - (1) 会費の未払。
  - (2) この会の活動を妨げ又は著しく信用を失わせる行為をした者。
  - (3) パルシステム連合会と直接又は間接的取引の無くなった者。

(役員)

第4条 この会は、その運営及び監査のため、幹事及び監事若干名をおく。この内容は以下のとおりとする。

(1) 幹事

- ① 生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。
- ② 生産者幹事は各ブロック、各専門部会より選出する。
- ③ 消費者幹事は会員生協及びパルシステムの推薦により選出する。
- ④ 選出された幹事は総会で選任する。
- ⑤ 任期は2年とし、再任を妨げない。
- ⑥ 役員の数については年度ごとに幹事会で定める。
- ⑦ 消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。

(2) 監事

- ① 生産者1名・消費者1名とする。
  - ② 毎運営年度2回以上、会の財産及び幹事の運営執行状況を監査しなければならない。
2. この会はアドバイザーをおくことができる。アドバイザーについては、別途「アドバイザー規程」に定める。

(会費)

第5条 会費については別途「会費規程」に定める。

2. 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

- 2 運営年度は、1月1日より12月31日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、パルシステム生活協同組合連合会内におく。

(改廃)

第8条 この規約の改廃は、総会の決議によらなければならない。

## 運 営 規 程

2013年第24回総会 一部改定

2024年第2回幹事会 一部改定

(総則)

第1条 パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条 生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は代表幹事が召集する。

2. 総会は委任状を含め過半数の出席をもって成立する。

(幹事会)

第3条 この会は次の内容で開催する。

- (1) 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
- (2) 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を互選する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名をおくことができる。
- (3) 幹事会は代表幹事が召集する。
- (4) 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
- (5) 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会をおく。

2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条 生産者運営委員会は、生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理を行うことを目的とする。

2. 生産者幹事、副ブロック長、部会長および副部会長をもって組織する。
3. この会は委員長1名を互選する。
4. 招集は委員長が行い、年3回以上委員会を開催する。
5. 委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(地域ブロック)

第6条 地域ブロックは、生産者同士の地域的つながりの強化と連帯を図り、生産者同士の意見交流、情報交換を行い、生産向上に生かすことを目的とする。

2. 地域ブロックは、東北・北海道、関東・中部、関西・以西の3ブロックとする。
3. ブロック長1名、副ブロック長2名をブロック会議で選任する。但し他ブロックとの兼任はできない。
4. ブロック会議の招集はブロック長が行い、年2回以上ブロック会議を開催する。
5. ブロック役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(専門部会)

第7条 専門部会は米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つとし、それぞれの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行うことを目的とする。

2. 各部会、年2回以上の部会を開催する。
3. 各部会は、部会長1名、副部会長1名を互選する。但し他部会との兼任はできない。
4. 副部会長を2名以上おく場合は幹事会の承認を得るものとする。
5. 部会長、副部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(その他会議体)

第8条 必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

第9条 消費者運営委員会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協全体に反映させるためのまとめ役を行うことを目的とする。

2. 消費者幹事をもって組織する。
3. 招集は委員長が行い、月1回の開催を基本とし、その決定は年度ごとに行う。
4. 副代表幹事は委員長を兼ねることとする。

(事務局)

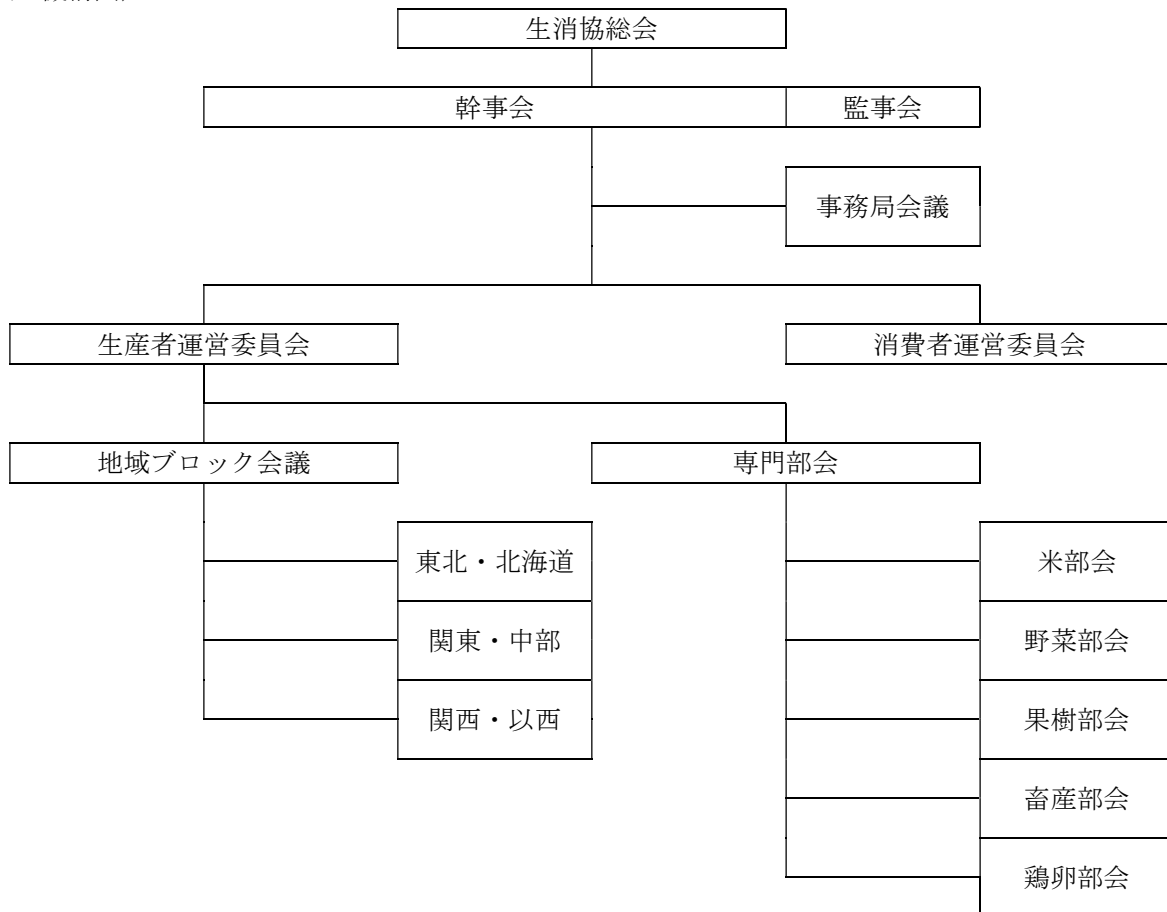
第10条 生消協の運営を円滑に進めるために代表幹事の下に事務局をおく。

2. 事務局は各種企画を、その都度実行委員会を組織してこれにあたることできる。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名する。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

(別紙：機構図)



## 会 費 規 程

2024 年第 2 回幹事会 一部改定

(会費算定)

第 1 条 会費の算定は、以下の通りとする。

(1) 生産者団体

- ① 生産者会費は最低会費を 1 万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
- ② 年間取引高がわかりにくい場合は産地と協議の上決定する。
- ③ 賛助会員の会費は、別途協議する。
- ④ 取引高に応じた会費は以下を基準とする。

年間取引高	会費額
10 億円超	250,000 円
5 億円超	200,000 円
3 億円超	150,000 円
1 億円超	100,000 円
7 千万円超	70,000 円
5 千万円超	50,000 円
3 千万円超	30,000 円
1 千万円超	20,000 円
1 千万円以下	10,000 円

(2) 消費者団体

- ① 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により幹事会で確定する。
- ② 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
  - (a) 生消協当該年度予算の概ね半額を目安とする。
  - (b) 会員生協の総額、連合会、(株)パル・ミートの会費については幹事会で決める。
  - (c) 会員生協の会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の 3 月末登録組合員の数値（Web サーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第 2 条 会費の払込は、以下の通りとする。

- (1) 生産者団体の会費は、前年度の 12 月末までに各団体へ請求書を発行し、当該年度 1 月末日までに収めるものとする。
- (2) 消費者団体の会費は、当該年度の 4 月 15 日までに各団体へ請求書を発行し、4 月末日までに収めるものとする。

(改廃)

第 3 条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会

旅 費 規 程

2020年第1回幹事会 一部改定

2024年第2回幹事会 一部改定

(役員旅費支給)

第1条 幹事会、生産者運営委員会、消費者運営委員会、他地域ブロック会議、会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規程の定めによる。

2. 通常総会、自地域ブロック会議、催事(賀詞交歓会、青果フォーラム、農法研究会、部会主催の会合など)については支給しない。

(支給額算出根拠)

第2条 交通費は、原則として領収書等によって確認される次の金額を支給する。但し、領収書等による確認が困難な場合は、公共交通機関の料金及び別に定める基準によって支給する。

- (1) 自動車等の燃料代及び有料道路使用料金、駐車料金等
- (2) 鉄道・バス等の乗車運賃及び特急・指定席料金
- (3) 航空賃のエコノミークラス料金
- (4) タクシー乗車賃
- (5) レンタカー利用代金

2. 単独の会議(午前中のみ、又は、午後のみ)などで前泊・後泊での参加の際、算定期間は1泊2日とし、交通費・宿泊費補助の上限を7万円とする。但し、2日間連続しての会議参加の場合はこの限りではない。

3. 宿泊が必要となった会議への参加の場合は可能な限り出張パック等を利用する。

4. 当協議会活動と他業務と並行する場合、交通費・宿泊費総額の半額を支給する。

(支給方法)

第3条 所定の旅費請求書を用い、会合開催日から1ヶ月以内に事務局へ請求する。事務局は、内容確認の上、毎月5日到着分までを、会合開催日の翌月末に支給する。

(改廃)

第4条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会

慶 弔 規 程

2024年第2回幹事会 一部改定

(総則)

第1条 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規程による。金額などの裁定は代表幹事が決定する。

2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。

(改廃)

第2条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

東北・北海道ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク
2	会津よつば農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合
4	株式会社イナゾーフาร์ม
5	うもれ木の会
6	株式会社エプロン
7	有限会社大牧農場
8	農事組合法人オーリア21
9	雄勝りんご生産同志会
10	奥中山高原農協乳業株式会社
11	音更町農業協同組合
12	株式会社花兄園
13	かつの農業協同組合
14	北いぶき農業協同組合
15	クロダファームグループ
16	有限会社ゴールド農園
17	小清水町農業協同組合・健土塾
18	こまち農業協同組合
19	株式会社ジェイラップ
20	士別市多寄有機農業研究会
21	農事組合法人士別農園
22	有限会社旬彩ファーム
23	農事組合法人庄内協同ファーム
24	庄内たがわ農業協同組合
25	新みやぎ農業協同組合
26	津軽みらい農業協同組合
27	合同会社天童果実同志会
28	常盤村養鶏農業協同組合/農事組合法人八峰園
29	ノーザンビーふ産直協議会
30	有限会社花咲農園
31	花巻農業協同組合
32	ふくしま未来農業協同組合
33	有限会社富良野青果センター
34	ベジタブルワークス株式会社
35	ポーランドグループ
36	までっこチキン生産者連絡協議会
37	株式会社丸公
38	みちのく野菜倶楽部
39	山形おきたま農業協同組合
40	山形コープ豚産直協議会
41	株式会社米沢郷牧場

関東・中部ブロック	
42	青木農園
43	株式会社アグリイノベーションズカンパニー
44	あじたま販売株式会社
45	有限会社アップルファームさみず
46	有倉きのこ園
47	アルプス農業協同組合
48	五十嵐菌茸株式会社
49	有限会社伊豆鶏業
50	いすみ農業協同組合

関東・中部ブロック	
51	農事組合法人エコーたまつくり
52	えちご上越農業協同組合
53	えちご中越農業協同組合
54	遠州中央農業協同組合
55	有限会社小川和男養鶏場
56	株式会社オルター・トレード・ジャパン
57	有限会社おひさまぼかぼか
58	勝沼平有機果実組合
59	神奈川中央養鶏農業協同組合
60	金沢市農業協同組合
61	かなもと青果株式会社
62	株式会社カモスフィールド
63	有限会社北浦軍鶏農場
64	峡南鶏友会
65	農事組合法人グットファーム
66	久望農園
67	くらぶち草の会
68	有限会社黒富士農場
69	ビーエム自然塾有限会社謙信の郷
70	佐久浅間農業協同組合
71	佐久ゆうき合同会社
72	株式会社ささかみ
73	佐渡農業協同組合
74	農事組合法人佐原農産物供給センター
75	産直いばらき うまがっぺ牛乳協議会
76	有限会社サンドファーム旭
77	サン・ファーム
78	三里塚農法の会
79	澁谷養鶏農場
80	株式会社ジェイエイしみずサービス
81	首都圏とんトン協議会
82	有限会社ジョイファーム小田原
83	常総センター
84	常総ひかり農業協同組合産直研究会
85	特定非営利活動法人食農ネットささかみ
86	有限会社匠瑳ジービーセンター
87	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
88	農事組合法人村悟空
89	株式会社ちば風土の会
90	ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部会
91	有限会社ちば緑耕舎
92	つくば市谷田部農業協同組合産直部会
93	有限会社寺島農場
94	有限会社栃木元気会
95	有限会社トップリバー
96	利根川生産者グループ
97	株式会社ナカシヨクミートフーズ
98	有限会社中山食茸
99	株式会社和の里しまだ
100	株式会社菜の花エッグ
101	新潟かがやき農業協同組合
102	株式会社ニッコー

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

関東・中部ブロック	
103	有限会社日本の稲作を守る会
104	有限会社白州森と水の里センター
105	株式会社花園たまや
106	農事組合法人葉菜野果産直
107	株式会社パシフィック・トレード・ジャパン
108	株式会社ファーマン
109	フォレスト・ファーム
110	有限会社フレンズファーム
111	農事組合法人御坂うまいもの会
112	南伊豆太陽苑生産者グループ
113	南埼玉産直ネットワーク
114	みなみ魚沼農業協同組合
115	有限会社宮本養鶏
116	ももっこファーム山梨
117	株式会社野菜くらぶ
118	やさと農業協同組合
119	株式会社八街産直会
120	農事組合法人八千代産直
121	やはた会
122	有限会社山口養豚場
123	有機栽培あゆみの会
124	有限会社沃土会
125	農事組合法人郷園

関西・以西ブロック	
126	イシハラフーズ株式会社
127	うまか有機銘茶会
128	株式会社沖繩物産企業連合
129	おても会
130	鹿児島くみあい食品株式会社
131	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
132	かごしま有機生産組合
133	紀ノ川農業協同組合
134	有限会社草枕グループ
135	有限会社高生連
136	高知県農業協同組合
137	株式会社さかもとふる一つ
138	株式会社ささ営農
139	佐藤農場株式会社
140	株式会社産直南島原
141	さんまる柑橘同志会
142	株式会社四国の野菜
143	有限会社島原自然塾
144	農事組合法人しもつコープファーム
145	神内ファーム二十一株式会社すずき牧場
146	有限会社大紀コープファーム
147	農事組合法人たいよう農園
148	たじま農業協同組合
149	筑前あさくら農業協同組合
150	株式会社長有研
151	株式会社鳥越ネットワーク
152	農事組合法人ながさき南部生産組合
153	有限会社なかむら農園
154	西日本有機農業生産協同組合

関西・以西ブロック	
155	農業生産法人株式会社ニューズ
156	有限会社農民連京都産直センター
157	有限会社肥後あゆみの会
158	J A広島果実連株式会社
159	福岡八女農業協同組合
160	株式会社フレッシュダイレクト
161	有限会社真南風
162	株式会社マルタ
163	株式会社マルハ園芸
164	株式会社味咲
165	株式会社地域法人無茶々園
166	有限会社やさか共同農場
167	一般財団法人夢産地とさやま開発公社
168	有限会社ゆらぎふあーむ
169	J Aわかやま 紀南地域本部 田辺印の会
賛助会員	
170	えりも漁業協同組合
171	大隅地区養まん漁業協同組合
172	恩納村漁業協同組合
173	有限会社カネモ
174	富栄海運有限会社唐津営業所シーボーン昭徳
175	全国漁業協同組合連合会
176	長崎県漁業協同組合連合会
177	野付漁業協同組合
178	北海道漁業協同組合連合会
パルシステムグループ	
179	生活協同組合パルシステム東京
180	生活協同組合パルシステム神奈川
181	生活協同組合パルシステム千葉
182	生活協同組合パルシステム埼玉
183	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
184	生活協同組合パルシステム山梨 長野
185	生活協同組合パルシステム群馬
186	生活協同組合パルシステム福島
187	生活協同組合パルシステム静岡
188	パルシステム生活協同組合連合会
189	株式会社パル・ミート

■会員数 (2026年3月1日時点)

東北・北海道ブロック	41会員
関東・中部ブロック	84会員
関西・以西ブロック	44会員
賛助会員	9会員
パルシステムグループ	11会員
合計	189会員



**パルシステム生産者・消費者協議会**